

李朝實錄 第三十八冊

顯宗改修實錄

學習院東洋文化研究所刊

李朝実録第三十八冊

昭和三十九年三月十日

東京都港区芝南佐久間町一ノ五三

笠井出版印刷社印刷

東京都豊島区目白町一ノ一〇五七

学習院東洋文化研究所刊行

編纂刊行責任者 末松保和

PDG

頤宗改修実録解説

〔一〕 頤宗実録が編刊された肅宗三年（一六七七）九月から、わずか三年を経た肅宗六年七月、承文院判校鄭勣は上疏して、かの実録は「權奸が史筆を盜竊」して成ったものであるから、局を設けて釐正すること、当令第一の急務であるといった。この上疏は、当時のはげしい党争を反映するものであった。すなわち上疏の前々月、かの実録を編刊した「南人」の政治的優勢は一変して、「西人」のそれが、従来よりも尖鋭な形で樹立されていたからである。

〔二〕 鄭勣の議は、王廷上層部の熟講ののちに採用され、其間、かの実録の欠点の一つとして「疏略太甚」も指摘され、漢城府に実録改修庁が設けられた（八ヶ月の頃）。

〔三〕 翌、肅宗七年（一六八一）五月二十二日、改修の總裁官に領議政金寿恒、堂上に吏曹判書金錫胄、弘文館提學李端夏、大提學李敏叙、芸文提學金万重が任命された。何れも西人中の鉅々たる面々である。

〔四〕 頤宗改修実録は、肅宗九年（一六八三）三月に出来上り、印刷を終えた。全二十八巻、附録一冊。

〔五〕 この実録の現存するものは、江華本・太白山本・赤裳山本の三部で、みな同一活字本である。板匡、縦四一・六糪、横二五・五糪。毎半葉十五行、行三十字。

〔六〕 昭和六年（一九三一）京城帝國大学法文学部の景印本は、太白山本に拠って、それを約二分一に縮印したものである。但し製冊は旧のまま和装二十九冊とした。

〔七〕 いまここに学習院東洋文化研究所が刊行する普及版李朝実錄第三十八冊としての顯宗改修實錄は、財團法人東洋文庫所蔵の京城大學景印本に拠り、それをさらに縮めて原本の四頁を一頁に収めたものである。

昭和三十九年一月

学習院東洋文化研究所
末 松 保 和

顯宗改修實錄目錄

卷一

己亥孝宗十年 <small>(西曆一六五九)</small>	五月(辛酉朔).....	一
己亥即位年	五月(辛酉朔).....	四
	六月庚寅朔.....	六
	七月庚申朔.....	六
	八月己丑朔.....	三
	九月己未朔.....	三
	十月戊子朔.....	三
	十一月戊午朔.....	三
	十二月丁亥朔.....	三

卷二

己亥即位年

庚子元年	(一六六〇)正月丁巳朔.....	四
	二月丙戌朔.....	四
	三月丙辰朔.....	四
	四月乙酉朔.....	四
	五月乙卯朔.....	四

卷三

庚子元年

卷四

庚子元年

六月甲申朔.....
七八月甲寅朔.....
八月甲申朔.....
九月癸丑朔.....
十月癸未朔.....
十一月壬子朔.....
十二月壬午朔.....癸
巳九月癸未朔.....
十月癸未朔.....
十一月壬子朔.....
十二月壬午朔.....癸
巳

卷五

辛丑二年

(一六六二) 正月辛亥朔.....
二月辛巳朔.....
三月庚戌朔.....
四月庚辰朔.....
五月己酉朔.....
六月戊寅朔.....
七月戊申朔.....
閏七月戊寅朔.....
八月丁未朔.....
九月丁丑朔.....
十月丁未朔.....癸
巳

卷六

辛丑二年

七月戊寅朔.....
八月丁未朔.....
九月丁丑朔.....
十月丁未朔.....癸
巳

十一月丙子朔.....[壹]

十二月丙午朔.....[肆]

壬寅三年

(一六六一) 正月乙亥朔.....[壹]

二月乙巳朔.....[壹]

三月甲戌朔.....[壹]

四年甲辰朔.....[壹]

五月癸酉朔.....[壹]

六月壬寅朔.....[壹]

七月壬申朔.....[壹]

八月辛丑朔.....[壹]

九月辛未朔.....[壹]

十月辛丑朔.....[壹]

十一月辛未朔.....[壹]

十二月庚子朔.....[壹]

卷八

壬寅三年

癸卯四年

(一六六三) 正月庚午朔.....[壹]

二月庚子朔.....[壹]

三月己巳朔.....[壹]

四月戊戌朔.....[壹]

五月戊辰朔.....

六月丁酉朔.....

七月丙寅朔.....

八月丙申朔.....

九月乙丑朔.....

十月乙未朔.....

十一月乙丑朔.....

十二月甲午朔.....

(一六六四)正月甲子朔.....

二月甲午朔.....

三月癸亥朔.....

四月癸巳朔.....

五月壬戌朔.....

六月壬辰朔.....

閏六月辛酉朔.....

七月庚寅朔.....

八月庚申朔.....

九月己丑朔.....

卷九 羌卯四年

六月丁酉朔.....

七月丙寅朔.....

八月丙申朔.....

九月乙丑朔.....

十月乙未朔.....

十一月乙丑朔.....

十二月甲午朔.....

(一六六四)正月甲子朔.....

二月甲午朔.....

三月癸亥朔.....

四月癸巳朔.....

五月壬戌朔.....

六月壬辰朔.....

閏六月辛酉朔.....

七月庚寅朔.....

八月庚申朔.....

九月己丑朔.....

卷十

癸卯四年

卷十一

甲辰五年

九月己丑朔.....

八月庚申朔.....

七月庚寅朔.....

六月壬辰朔.....

閏六月辛酉朔.....

七月庚寅朔.....

八月庚申朔.....

九月己丑朔.....

十月庚寅朔.....

十一月庚寅朔.....

十二月庚寅朔.....

正月庚寅朔.....

二月庚寅朔.....

三月

卷十一	甲辰五年	十月己未朔	丙子
		十一月戊子朔	丁丑
		十二月戊午朔	戊寅
乙巳六年	(一六六五)	正月戊子朔	己卯
		二月戊午朔	庚辰
		三月丁亥朔	辛巳
卷十三	乙巳六年	四月丁巳朔	壬午
		五月丙戌朔	癸未
		六月丙辰朔	甲申
		七月乙酉朔	乙酉
		八月甲寅朔	丙戌
九月甲申朔		九月甲申朔	丁亥
十月癸丑朔		十月癸丑朔	戊子
十一月癸未朔		十一月癸未朔	己丑
十二月壬子朔		十二月壬子朔	庚寅
丙午七年	(一六六六)	正月壬午朔	辛巳
二月壬子朔		二月壬子朔	壬午
三月辛巳朔		三月辛巳朔	癸未

三月丙申.....

四月辛亥朔.....

五月辛巳朔.....

六月庚戌朔.....

七月庚辰朔.....

八月己酉朔.....

九月戊寅朔.....

十月戊申朔.....

十一月丁丑朔.....

十二月丁未朔.....

丁未八年

(一六六七) 正月丙子朔.....

二月丙午朔.....

三月乙亥朔.....

四月乙巳朔.....

閏四月乙亥朔.....

五月甲辰朔.....

六月甲戌朔.....

七月癸卯朔.....

卷十八

丁未八年

八月癸酉朔

癸巳

九月壬寅朔

癸巳

十月壬申朔

癸巳

十一月辛丑朔

癸巳

十二月辛未朔

癸巳

戊申九年
(一六六八) 正月庚子朔

癸巳

二月庚午朔

癸巳

三月己亥朔

癸巳

四月己巳朔

癸巳

五月戊戌朔

癸巳

六月戊辰朔

癸巳

七月戊戌朔

癸巳

八月丁卯朔

癸巳

九月丁酉朔

癸巳

十月丙寅朔

癸巳

十一月丙申朔

癸巳

十二月乙丑朔

癸巳

卷二十

戊申九年

己酉十年
(一六六九) 正月乙未朔

癸巳

二月甲子朔	癸
三月甲午朔	癸
四月癸亥朔	壬
五月癸巳朔	癸
六月壬戌朔	癸
七月壬辰朔	癸
八月辛酉朔	壬
九月辛卯朔	癸
十月辛酉朔	癸
十一月庚寅朔	癸
十二月庚申朔	癸
庚戌十一年 (一六七〇) 正月己丑朔	癸
二月己未朔	癸
閏二月戊子朔	癸
三月戊午朔	癸
四月丁亥朔	癸
五月丙辰朔	癸
六月丙戌朔	癸

卷二十三 庚戌十一年

七月乙卯朔………空

八月乙酉朔………空

九月乙卯朔………空

十月乙酉朔………空

十一月甲寅朔………空

十二月甲申朔………空

辛亥十二年（一六七一）正月癸丑朔………空

二月癸未朔………空

三月壬子朔………空

四月壬午朔………空

五月辛亥朔………空

六月庚辰朔………空

七月庚戌朔………空

八月己卯朔………空

九月己酉朔………空

十月己卯朔………空

十一月戊申朔………空

十二月戊寅朔………空

卷二十五 辛亥十二年

壬子十三年

(一六七二) 正月戊申朔

癸卯

二月丁丑朔

癸卯

三月丁未朔

癸卯

四月丙子朔

癸卯

五月丙午朔

癸卯

卷二十六

壬子十三年

六月乙亥朔

癸卯

七月甲辰朔

癸卯

閏七月甲戌朔

癸卯

八月癸卯朔

癸卯

九月癸酉朔

癸卯

十月壬寅朔

癸卯

十一月壬申朔

癸卯

十二月壬寅朔

癸卯

癸丑十四年 (一六七三)

正月壬申朔

癸卯

二月辛丑朔

癸卯

三月辛未朔

癸卯

四月庚子朔

癸卯

五月庚午朔

癸卯

卷二十七

癸丑十四年

六月己亥朔……… 売

七月戊辰朔……… 売

八月戊戌朔……… 売

九月丁卯朔……… 売

十月丁酉朔……… 売

十一月丙寅朔……… 売

十二月丙申朔……… 売

甲寅十五年。（一六七四）正月丙寅朔……… 売

二月(丙申)乙未朔……… 売

三月乙丑朔……… 売

四月乙未朔……… 売

五月甲子朔……… 売

六月甲午朔……… 売

七月癸亥朔……… 売

八月壬辰朔……… 売

行 状………

哀冊文………

謚冊文………

誌

文

◎

11

顯宗純文肅武敬仁彰孝大王改修實錄卷之一

行飯食之禮此出於權道今則

世子當躬行云而該會儀注何以相左耶禮

孝宗大王十年己亥清康熙十六年五月月初四日甲子 奉宗大王薨于昌德宮之大

造殿前月

二十七日有小瓶發于右耳前鬢髮上面部微有浮氣內貯都提調

元斗杓提調洪夏副提調趙時等率諸人訃初不知為毒體進湯藥又傳

促臘膏等藥並不效初一日下教于藥房曰浮氣日盛而諸醫徒事泛泛鄉

等亦勿泛泛是日再受餌初三日又餌臘處

令同知申可

責執餌可責本或人曉餌術上

年上因落傷患脾腫今可責治有效至是

又令可責下餌可責久病手戰誤犯血筋初出臘汁一匙許紫黑血隨湧如注

急用血竭槐花等藥而血猶不止

令同知申可

上候宣塞自內便進竹瀝清心元內臂

提調及謀承

希善黃超入至大造殿階

下級而替官等傳言少進麻及獨參湯上使乍定下教勿令喧動諸臣

少房有頑醫官傳言上使十分危急內官又便內臂提調入內承旨史官隨

入又傳命子領議政鄭太和吏曹判書宋時烈曰急急入未似將有

賴今與

兩臣趨入左議政沈之源右恭贊宋浚吉等隨之

上時床東首以白紗被

衣裯首已不開玉音美左右夾宣說哭聞於外禁止而不可得 王世子哭辨

上

○

顯宗純文肅武敬仁彰孝大王改修實錄卷之二

行飯食之禮此出於權道今則

世子當躬行云而該會儀注何以相左耶禮

曹判書尹誠對以本曹只據五禮儀書入而時烈等之議如此實為古禮儀注

當改入矣

○初更行

裝禮大臣禮官兩司長官諸奉言王堂一貞依已丑故

事入侍階上鄭太和令

宋時烈宋浚吉等亦入侍裝用象龍袍翼善冠黑靴時

烈進詰禮手

足

金禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝

於

中

央

大

南

首

行

禮

全禮

世子出

下陪上席

舉

裝